



VOL. 22 No. 1 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1989. 3.20

新入学生諸君に

安富祖 忠 信

新入学生諸君、入学おめでとう！ 一年前、あるいは半年前、志望する学科、また志望する大学を決めるのに悩んでいたあの頃、来る日も来る日も受験勉強に明け暮れていたあの暗い日々を思い出すと、今の気分は全く幸せ一杯であるに違いない。共通一次試験、次いで二次試験と、何れも難関を突破して今日の入学を勝ち得たのであるから、大いに自信とエリート意識をもって欲しい。それと同時に、大勢の不合格になった受験生達が居ることを忘れてはならない。即ち、不合格になった人達の分も、社会に尽さなければならない義務を伴うことになる。しかしこの際、この義務を重荷として負担に感じるのではなくて、選ばれたという自信を意識して使命感として受け取るべきである。

新学期の登録の後講義が始まると気が付くことは、高校と違い、授業のない空き時間が多いことである。

目 次

新入学生諸君に	昭和63年度
(安富祖忠信) …………… 1	沖縄関係図書新着案内…………… 6
辞職に際して思うこと	図書館事情……………10
(山田 勉) …………… 3	医学部分館コーナー……………11
電算化日録…………… 4	ブラウジング・コーナー……………13
オンライン情報検索サービスの御案内	
— JOIS・DIALOG・NACSIS-IR —…………… 4	

ところで、大学における1単位の内容は、本来、1週間当りと言えば、1時間の講義に対して予習と復習を夫々1時間ずつ行うことを前提にしている。従って1学期の履修単位を制限一杯の20単位とした場合、1週間に60時間の学習時間が必要であり、月曜日から土曜日まで毎日10時間宛という大変な猛勉強ということになる。しかし、大部分の学生がそれ程の猛勉強をしていない現実を見ると、結局、自ら、大学における単位の値打ちを下げていると言っているといえよう。

全教官が宿題や試験を課すことによって、1単位に対して週に3時間の勉強を強制することも考えられるが、卒業後、何れは自らを律する生活習慣が必要になることを思えば、勉強の方法については個々の学生の自主性に任せるのが望ましい。それが大学生らしい自主的な学習である。それでも、中には頻繁に宿題や試験を課す教官もいて、1単位当り週に3時間勉強させるが、それを行わない教官の授業に対してはそれ程勉強する必要がないという意味ではなく、それと同等のことを学生が各自で行えということである。教官による講義は勉強する為のほんのきっかけを作っていると考えるべきである。単位制の表現で言えば、週3時間の勉強のうち1時間が講義であるから、講義は勉強全体の3分の1でしかない。あとの3分の2は自分で、自主的に行う筈なのだ。自主的に行うからには、自分に合った、個性的で能率的な勉強方法を見い出して実行すべきである。

情報化時代といわれる現代は、我々の身の廻りに色々な情報関連の機器があり、かつては大変な労力を要した計算や資料の整理などが、実に簡単に、これらの機器によって行われるようになった。このことは、我々人間の活動において、機械がやれるような仕事はしなくて済むようになり楽になったということである。しかし反面、人間には、より高度な仕事や、人間にしかできない思い入れを必要とする仕事しか残されていないということでもある。つまり、電卓を使うことで計算が楽になった分だけ、高級な思考を要する仕事や心のこもった仕事が要求されていることになる。

また、出版物の少なかった古い時代に比べて現代は数多くの本や雑誌があり、それらを通して様々な多くの情報が容易に得られるので、その点は大いに恵まれていると言える。しかし一方では、これら多くの情報源から如何にして自分に必要なものを選ぶかということになると、その判断はなかなか難しい。従って、一概に、今の時代は勉強がし易いとは言えない。物が少なかった古い時代と物が豊富な現代とでは、自と勉強の仕方も違っていい。

各分野における技術の進歩に伴い人間社会の、特に物質的な面で豊かになったことは確かであるが、稍もすれば精神的には貧しくなり勝ちで、また同時に資源の枯渇、自然環境の破壊など、人類だけでなく地球全体の滅亡の危険さえあることも確かであり、その対策は単に技術的ではなく、思いやりの心や大自然に対する謙虚な態度をもって当たることが肝要である。人間が万物の霊長であることには違いないとしても、人間も結局は大自然の中で生かされている存在であることを思えば、我々が現在享受している文明の利器の恩恵も、大自然の中の極く一部のしくみを上手に利用しているということに過ぎず、決して自然を征服したわけではないということを悟るべきである。

従って、この豊かな時代は同時に危険な時代とも言えるし、地球は未だかつて経験したことのない試練に直面している。

選ばれて大学に入学した諸君は、この厳しい時代を乗り切る、社会の指導的役割を担っていることを自覚すべきである。現代我々が直面しているさまざまな問題解決の為には、各人のもっている

多様な能力を十分に伸ばす必要があり、それには各人が自主的に学ぶことが大事である。

自主的に学ぶには色々な方法があると思う。その中の一つ、図書館を利用するのもよい。図書館には全ての分野の図書や資料があり、その有効利用を待っている。静かに並んだ沢山の図書や資料に自分から近づき、自分で選択して情報を手に入れ、自分で判断する作業は典型的な自主的学習と言えよう。

大学生らしい自主的な勉学の場として、図書館は諸君が来るのを待っている。

(あふそ ちゅうしん：工学部教授 電子工学)

辞職に際して思うこと

山 田 勉

私が琉大図書館に就職したのは、1956年4月1日でした。その頃は教員、事務員を問わず皆顔見知りで、お互に気心の知れた仲だったような気がします。小さい大学という自覚はありましたが、他所から布令大学とか8ミリ大学とからかわれると癪にさわったものです。

図書館は1955年12月に志喜屋記念図書館として建物は完工を見ていたので、私はこの立派な図書館で働く事のできることを非常に誇りに思っていました。それは総タイル張りで、天上は防音テックスがはられ、床はアスファルトタイルでした。当時の建物としては超一級のものだったでしょう。地域住民や米軍、ハワイ同胞の協力で出来た図書館だったので、建設当初から地域住民の利用者は多かったものです。

その後琉大は琉球政府立となり、また昭和47年復帰と同時に国立大学になりました。その間我々は文書事務や調達事務等で琉球政府の様式や方法に馴れたかと思ったら、間もなく国立大学としての事務に馴れなければなりません。九州各地の国立大学から指導員が琉大に派遣されて事務援助、指導が行なわれました。大学が発展し、人が増え、整備されてくると文書に捺す印鑑の数が増えるということも知りました。大学の中に居て、アメリカ世から沖繩世、そして日本世と変わりましたが、不器用なものですからそれに馴れるというか、順応するのに精一杯だったという気がします。

千原キャンパスに移ってから思うのは創立間もない頃よりも教職員も学生も数は数倍になっている筈なのに、首里時代よりも淋しいと感ずるのはどういうことでしょうか。キャンパスの面積も10倍以上になって、お互に顔を合す機会が少なくなったせいかも知れません。図書館に居りますと他部局の職員の顔も知らなくなり、キャンパス内で会っても挨拶もしないというか、できない状況となりました。大きいことは良いことだと誰かが言っていましたが、小さくても首里時代がなつかしく思い出されます。

このように回顧的になるというのは、自分の思考が老いたのだらうかと思ったりもします。私が2年早目に辞めることについて友人たちがとやかく言うものですから、「早めに辞めれば長生きできるよ」ということにしています。退職後は何をするのかと心配してくださる方もありますので、申し開きをしておきますと、朝はできるだけ早く起きて畑を耕したり、作物の手入れをして、10時

頃にはきり上げて、一風呂浴びて、食事をして昼寝をむさぼり、午後は囲碁を楽しんだり、同好の人達と花を見に行ったりして、夜は家内に文句を言われない程度にあわもりを飲むということでもあります。雨天の日はやむを得ないので、読書することにしておきたい。晴耕雨読とは良い言葉だが、私にはなじみそうもないので、晴耕雨飲もまたよいのではなからうか。

(やまだ つとむ：情報サービス課長)

電 算 化 日 録

(1988年11月21日～1989年2月28日)

学術情報係

- 11月21日 (月) 富士通との打合せ (図書館システム提案)
- 22日 (火) 運用連絡班会議 (第17回)
- 29日 (火) 図書館業務電算化委員会 (第7回; 専用機にむけて)
- 12月7日 (水) 運用連絡班会議 (第18回)
- 16日 (金) COBOL研修会 (第50回, 終了)
- 21日 (水) 富士通ILISレベルアップ機能説明会 (学情接続CASE3等)
- 1月11日 (水) 運用連絡班会議 (第19回)
- 17～18日 (火) 富士通ILISレベルアップ説明会 (図書受入、雑誌受入)
- 25日 (水) 運用連絡班会議 (第20回)
- 2月7日 (火) NC雑誌データ追加開始
- 8日 (水) 運用連絡班会議 (第21回)
- 21日 (火) 図書館業務電算化委員会 (第8回)
- 22日 (水) 運用連絡班会議 (第22回)

オンライン情報検索サービスの御案内

— JOIS・DIALOG・NACISIS-IR —

附属図書館でオンライン情報検索の代行サービスを行っているのをご存じですか？

情報化社会と言われるようになって久しく、情報量は日々加速度的に膨れ上がり、その情報の洪水の中で必要な資料を拾い上げるのは容易なことではありません。手作業での検索に、その煩わしさに苛立ちをおぼえることもあるかと思えます。そのような時には一度オンライン情報検索を試してみてはいかがでしょうか。

図書館では、現在、DIALOG、JOIS、NACISIS-IRのオンライン情報検索の代行サービスを行っています。NACISIS-IRは学術情報センターの提供で19種のデータベースからなり、学術雑誌所在情報、MARC類、学位論文、科研費補助金研究成果概要等の特色あるデータベースがあります。DIALOGはアメリカのDIALOG INFORMATION

S E R V I C E社が提供しており、広範囲な分野をカバーする約350種のデータベースからなっています。J O I Sは日本科学技術情報センター（J I C S T）提供のシステムで医学、理工学系を中心に約40種のデータベースで構成されています。

この検索代行サービスの利用は校費で支払ができる方に限定されています。

利用受付時間は月曜日から金曜日までは9：00～16：00、土曜日は9：00～11：30です。本館3階事務室の学術情報係（内線2146）あるいは医学部分館の分館閲覧係（内線2733）にお越し下さい。問合せも上記係あてにどうぞ。

今回はD I A L O Gについて、その主要なファイルの蓄積レコード件数、料金などを紹介しましょう。N A C S I S - I R, J O I Sについては次回に掲載します。(1988.2現在)

ファイル名	対象分野	収録期間	蓄積情報量	接続料	タイプ料金	製作者等
ABI/INFORM	経営、管理	1971～	378,854	\$ 105/h	80c/件	U M I / D A T A
A G R I C O L A	農林業、畜産	1970～	2,484,832	\$ 39/h	10c/件	U S N A L
ARTBIBLIOGRAPHIES MOD.	美術、建築	1974～	103,421	\$ 60/h	15c/件	A B C - C L I O
BIOGRAPHY MASTER INDEX	人名録	最新	3,591,080	\$ 63/h	55c/件	G A L E
BIOSIS PREVIEWS	生命科学	1969～	5,658,226	\$ 93/h	32c/件	B I O S I S
BOOKS IN PRINT	米国出版目録	最新	1,841,470	\$ 65/h	20c/件	B O W K E R
CA SEARCH	化学全般	1967～	8,055,591	\$ 105/h	33c/件	C A S
THE COMPUTER DATABASE	コンピュータ	1983～	215,771	\$ 108/h	90c/件	I N F . A C C E S S
CONFERENCE PAPER INDEX	会議論文	1973～	1,253,431	\$ 84/h	40c/件	C A M B R I D G E S A
DIAGENES	医薬品	1976～	150,000	\$ 105/h	59c/件	D I O G E N E S
EMBASE	医学薬学	1974～	3,021,722	\$ 96/h	55c/件	E X C E R P T A M E .
ERIC	教育全般	1966～	679,733	\$ 30/h	10c/件	U S D E P . E D U .
GEOREF	地球科学	1785～	1,295,815	\$ 87/h	40c/件	A M E . G E O . I N S .
HISTORICAL ABSTRACTS	歴史全般	1973～	179,308	\$ 65/h	15c/件	A B C - C L I O
INSPEC	電気電子工学	1969～	3,049,755	\$ 111/h	54c/件	I E E
INVESTEXT	米国産業調査	1982～	467,633	\$ 96/h	\$ 4.50/件	T E C H . D A T A
MEDLINE	医学薬学	1966～	5,964,567	\$ 36/h	5c/件	U S N L M
METADEX	金属冶金合金	1966～	701,921	\$ 90/h	40c/件	A S M
MLA BIBLIOGRAPHY	語学文学民族	1968～	1,031,600	\$ 66/h	15c/件	M L A
NEWSPAPER ABSTRACTS	新聞記事索引	1984～	2,000,000	\$ 84/h	20c/件	U M I
NTIS	技術報告書	1964～	1,285,216	\$ 72/h	40c/件	N T I S
SCISEARCH	自然科学	1974～	8,437,147	\$ 153/h	46c/件	I S I
SOCIAL SCISEARCH	社会科学全般	1972～	2,288,324	\$ 120/h	46c/件	I S I
SPORT	スポーツ健康	1949～	204,252	\$ 70/h	25c/件	S P O R T I N F .
WORLD PATENTS INDEX	28ヶ国特許	1963～	4,189,723	\$ 172/h	50c/件	D E R W E N T P U B .
CLAIMS/CITATION	米国特許	1947～	3,506,500	\$ 95/h	\$ 20/件	I F I / P R E N U M
D&B DUN'S MARKETING SERVICE IDENTIFIERS	中小企業 会社録	最新	2,060,607	\$ 100/h	\$ 2.50/件	D U N ' S M A R K E - T I N G S E R V I C E
LIFE SCIENCES COLLECTION	生命科学	1978～	1,013,273	\$ 87/h	45c/件	C A M B R I D G E S A
NEWSEARCH	新聞雑誌記事	最近1月	～54,000	\$ 120/h	\$ 1.00/件	I N F . A C C E S S
TRADE&INDUSTRY INDEX	商工業界動向	1981～	2,998,803	\$ 90/h	20c/件	I N F . A C C E S S

昭和 63 年度 沖縄関係図書新着案内

1. 新垣美登子作品集 (三木健編) ニライ社 1988
2. 舞踊における美への視点 (金城光子著) 九州大学出版会 1988
3. 北谷町史 (北谷町史編集委員会編) 第 6 巻・北谷の戦後 1988
4. 鎮魂の賦 (一紀徹守著) 現代書林 1988
5. 大航海時代の琉球 (赤嶺誠紀著) 沖縄タイムス社 1988
6. 江戸与那 (宮城賢秀著) 墨東春秋社 1988
7. 踏まれても一休当たり相談記 (嘉陽宗儀著) 1988
8. 拝所回り 200 選 (比嘉朝進著) 風土記社 1988
9. 波 瀾 (稲福定蔵著) 沖縄教育社 1988
10. 遙かなるオルフェウス (上地隆裕著) 那覇出版社 1988
11. 旗焼く島の物語ー沖縄・読谷村のフォークロアー (高澤秀次著) 社会評論社 1988
12. 平和のために 2 学び・調べ・表現する (森田俊男・「平和教育研究森田塾」事務局編) 汐文社 1988
13. 炎のめざめーユタになった元国体選手ー (喜屋武照真著) 月刊沖縄社 1989
14. 池宮城積宝作品集 (仲程昌徳・津乗節子著) ニライ社 1988
15. いまどきの学校と教師と能率ー沖縄の教育現場からー (田島信洋著) あ〜まん企画 1988
16. 石敢當ー沖縄エッセイストクラブ作品集 5 ー 沖縄エッセイストクラブ 1988
17. 伊都子南島譜 (岡部伊都子著) 海風社 1988
18. 謝名元慶福戯曲集「アンマー達のカチャーシー」(謝名元慶福著) 新日本出版社 1988
19. 自伝・反戦フラー物語 (平安常次著) 沖縄教文出版社 1988
20. 時事漫画 戦後世相史 30 年 (とかしきただお著) 那覇出版社 1988
21. 自立の経済学・復帰と開発の政策読本 (高良有政著) ロマン書房 1988
22. 家畜百話 (渡嘉敷綏宝著) 月刊沖縄社 1988
23. 嘉永六年の奄美ー解説嶋中御取扱御一冊ー (山下文武著) ひるぎ社 1988
24. 蚊帳のホタルー仲宗根政善歌集ー 沖縄タイムス社 1988
25. 聞き書 沖縄の食事 (農文協編) 農文協 1988
26. 嘉善姓一門と八重山歴史 (大浜永亘著) 先島文化研究所 1988
27. 気ままなゆんたく いま、むかし (外間朝貴著) 沖縄出版 1988
28. ここが知りたい沖縄文化財 (比嘉朝進著) 風土記社 1988
29. 個性としての地域、沖縄ー森田俊男地域・教育論集ー 汐文社 1988
30. 旧満洲 (池宮城晃撮影) 池宮商会 1988
31. 見えない学校、見えない授業 (田島信洋著) あ〜まん企画 1988

32. 南の島の栄養学 (尚弘子著) 沖縄出版 1988
33. 南の島の新聞人 (南風原英育著) ひるぎ社 1988
34. 南琉球の方言基礎語彙 (平山輝男編著) 桜楓社 1988
35. 民衆と社会教育—戦後沖縄社会教育研究— (小林文人・平良研一編) エイデル研究所 1988
36. 宮古島の神秘的な石庭 (新城定吉著) 月刊沖縄社 1988
37. 燃える青春群像 (琉球新報編集局編) 琉球新報社 1988
38. 物語空間・ことばたちの森へ (関根賢司著) 桜楓社 1988
39. 昔やんばらの楽しい生活 (外間治男著) 球陽堂書房 1988
40. 南島の地名 (南島地名研究センター編) 第3集 1988
41. 西原町史—西原の戦時記録— (西原町史編纂委員会編) 1988
42. ノグチゲラーその生態と生息地— (玉城長正・中村保著) あき書房 1988
43. 沖縄文化研究 (法政大学沖縄文化研究所編) 第14巻 1988
44. 沖縄舞踊の歴史 (矢野輝雄著) 築地書館 1988
45. 「沖縄発」の時代 (宮城弘岩著) 沖縄出版 1989
46. 沖縄近代経済史 (向井清史著) 日本経済評論社 1988
47. 沖縄の豚と山羊 (鳥袋正敏著) ひるぎ社 1989
48. 沖縄の原像 (仲程昌徳・大石芳野著) ニライ社 1988
49. 沖縄の彩 Vol. 1 コミックおきなわ社 1988
50. 沖縄の貝、カニ、エビ (平田義和・仲宗根幸男・諸喜田茂充著) 風土記社 1988
51. 沖縄の御願 (高橋恵子著) ひるぎ社 1988
52. 沖縄の黄金言 沖縄総合図書 1988
53. 沖縄の祭祀 (高阪薫編著) 三弥井書店 1987
54. 沖縄の先端技術 (三田出版会編) 三田出版会 1989
55. 沖縄の宗教と民俗—窯徳忠先生沖縄調査二十年記念論文集— 第一書房 1988
56. 沖縄の陶工人間国宝 金城次郎 (大塚清吾写真) 日本放送出版協会 1988
57. 沖縄四季の花木 (沖縄生物研究会編) 沖縄タイムス社 1988
58. 沖縄・天皇制への逆光 (新崎盛暉・川満信一著) 社会評論社 1988
59. オキネシア文化論 (三木健著) 海風社 1988
60. パラシュート兵とプレゼント (又吉栄喜著) 海風社 1988
61. 琉球方言の研究 (仲宗根政善著) 新泉社 1988
62. 琉球列島の地形 (河名俊男著) 新星図書 1988
63. 琉球弧詩思想・状況 (高良勉著) 海風社 1988
64. サンゴ礁 (高橋達郎著) 古今書院 1988
65. サンゴ礁域の増養殖 (諸喜田茂充編著) 緑書房 1988
66. サンゴ礁の渚を遊ぶ—石垣島川平湾— (西平守孝著) ひるぎ社 1988
67. 精神医療・沖縄十五年 (鳥成郎著) 社会評論社 1988
68. 世界を舞台に—稲嶺一郎回顧録— (稲嶺一

- 郎著) 沖縄タイムス社 1988
69. 島おこしの経営学(平敷慶宏著) 創知マ
ネジメント 1988
70. 島うたの昭和史ー沖縄文学の領分ー(仲程
昌徳著) 凱風社 1988
71. 首里城跡歓会門・久慶門内側地域の復元整
備にかかる遺構調査 県教育委員会 1988
72. 叢論 日本天皇制(菅孝行編) III 拓植
書房 1988
73. 台風学のすすめ(石島英著) 新星図書
1988
74. 大将が死んだ(迎里勝弘著) 海風社
1988
75. 渡名喜村探訪(渡名喜村編集委員会編)
1988
76. 壺屋十年金城次郎・雑器の美(上村正美監
修・構成) 用美社 1988
77. 上野英信と沖縄一眉の清らさぞ神の島ー
(追悼文集刊行会編) ニライ社 1988
78. 馬と語る 馬を語る(高良鉄夫著) 那覇
出版 1988
79. ウラから見たマスコミ(大城光雄著) 光
データシステム 1988
80. 美しい沖縄の方言(船津好明著) 枝興社
1988
81. われらが誓ー横浜市鶴見区沖縄県人会ー
(吉岡福雄著) そうぶん社 1988
82. わたしのシーサーあなたのシーサー(週刊
レキオ社編) 1989
83. 八重山歌工四編纂百周年記念誌「あけぼ
乃」 記念事業期成会 1988
84. 焼きすてられた日の丸(知花昌一著) 新
泉社 1988
85. 吉茂随想集(吉茂著) エム・エス・アイ
1988
86. 友好のかけ橋ー上原清善伝ー(宮野賢吉
著) ニライ社 1988
87. ザ・クロス21世紀への予感(川満信一著)
沖縄タイムス社 1988
88. 随想「孫のひと声」(砂川博一著) 自費
出版 1988
- <追加>
89. 初めて学ぶ心理学(名城嗣明・東江平之編
著) 福村出版 1986
90. 宗教の深層(河満利磨著) 人文書院
1985
91. 日本の神々(谷川健一編) 神社と聖地
第13巻 南西諸島 白水社 1987
92. 全訳・琉球神道記(宜野座嗣剛訳) 東洋
出版 1988
93. 沖縄史科学の方法(我部政男著) 新泉社
1988
94. 沖縄を語るー金城芳子対談集ー(金城芳
子) ニライ社 1988
95. 南島の風土と歴史(上原兼善・大城立裕・
仲地哲夫著) 山川出版 1978
96. 政治の舞台裏ー沖縄戦後史ー(当山正喜
著) 沖縄あき書房 1987
97. 宜野座村誌 第4巻 資料編 II 文献資
料 上・下 宜野座村役場 1988
98. 沖縄市史 第7～8巻 近代期の新聞にみ
る歴史 上・下 1986, 1988
99. 宜野湾市史 第7巻 資料編6 新聞集成
III・上(米軍統治前期) 1988
100. 写真でみる浦添のあゆみー明治から昭和
62年ー(浦添市史編集委員会編) 浦添市
教育委員会 1988
101. 那覇市史 資料篇 第1巻4 歴代宝案
第1集抄 那覇市役所 1986
102. 涙の経済と教育(比嘉堅著) 南西印刷
出版 1988

103. 回想の島尾敏雄 (小川国夫著) 小沢書店 1987
104. 日記・遺稿 (水納あきら著, 遺稿刊行会編) ロマン書房 1988
105. 沖縄県司法書士史 (沖縄県司法書士史編集委員会編) 沖縄県司法書士会 1988
106. 沖縄経済の顔100人 沖縄タイムス社 1988
107. ブラジル沖縄移民誌、名簿 (屋比久孟清編著) 在伯沖縄県人会 1987
108. 沖縄県統計書 明治13年～昭和15年 80冊
109. 第31回沖縄県統計年鑑 昭和62年版 1988
110. 沖縄の踊り－教材化の方法を求めて－ (金城光子著) 1988
111. 渡嘉敷小学校創立百周年記念誌 1988
112. 沖縄の祝祭と年中行事 (渡口初美著) 国際料理学院 1987
113. 沖縄民衆文化の窓 (宜野座嗣剛著) 東洋図書出版 1987
114. 沖縄の自然百科 第3期 全8巻 沖縄出版 1988
115. 精神医療沖縄の15年 (島成郎著) 社会評論社 1988
116. 大島紬織物業の研究 (金原達夫著) 多賀出版 1985
117. 沖縄農業の最先端 (琉球新報編集局政経部編) 琉球新報社 1988
118. パース難回想記－外国貿易と港運業－ (親川光繁著) 沖縄港運協会 1988
119. 沖縄県歴史の道調査報告書 (県教育委員会編) I 真珠道・末吉宮参詣道 1988
120. 沖縄県歴史の道調査報告書 (県教育委員会編) V 中頭方東海道 1988
121. 琉歌古典歌詞集 (川平親雲上朝林編著) 野村流伝統音楽協会 1985
122. 琉球文学研究 (田島利三郎著) 第一書房 1988
123. おもろさうし対語索引 (浜田恭子編) ロマン書房 1988
124. 幻想の街・那覇 (牧港篤三著) 新宿書房 1986
125. 逝きて還りぬ (武田利明著) 海風社 1987
126. くさぐさ パート①、② 沖縄タイムス社 1988
127. 透明な時の中で (島尾敏雄著) 潮出版社 1988
128. ひめゆり教師の手紙 (玉代勢秀文・秀子) ニライ社 1988

図 書 館 事 情

〔第177回図書館運営委員会〕

日 時：昭和63年12月19日（月）

場 所：図書館会議室

議 題：1. 湧川清栄先生蔵書の受入について
2. その他

〔出 張〕

平成元年 1月25日(水)事務部長 重松多喜造

昭和63年度国立大学附属図書館事務部長会議出席、鹿児島・28日まで

平成元年 2月2日(木)整理係 渡邊由紀子

昭和63年度総合目録データベース実務研修参加、東京・3月3日まで

平成元年 2月21日(火)医分館閲覧係長 平陽子

A S K オンラインセミナー参加、豊中市・24日まで

平成元年 2月28日(火)情報管理課長 橋本健一、学術情報係長 本郷清次郎

附属図書館専用電算機導入に関する打合せ、東京・3月1日まで

平成元年 3月2日(木)整理係長 金城照子

目録作成業務に関する研修、福岡・3日まで

平成元年 3月13日(月)館長 安富祖忠信、事務部長 重松多喜造

文部省への事務連絡、東京・14日まで

平成元年 3月13日(月)情報サービス課長 山田 勉

情報サービス業務の実状調査、仙台・新潟・17日まで

平成元年 3月16日(木)受入係長 松原敏夫、医分館整理係 久保田隆弘

図書受入電算化業務に関する研修、つくば市・18日まで

〔感謝状〕

昭和63年12月6日(火) 元琉球大学教授故大濱皓氏蔵書2630冊を甥にあたる宮城信勇氏から寄贈されたことに対し、学長から感謝状の贈呈があった。

〔講演会〕

昭和63年12月16日(金)15：00～17：00

講演者：松村多美子図書館情報大学教授

演 題：学術情報システムと大学図書館の今後

〔その他〕

昭和63年12月16日(金) 沖縄県大学図書館協議会講演会

平成元年1月18日(水) 沖縄県大学図書館協議会講演会及び新年会

講演者：宇井純沖縄大学図書館長

演題：沖縄の公害に直面して

平成元年1月31日(火)～2月3日(金) 会計実地検査(図書館2月3日受検)

医学部分館コーナー

〔第23回運営委員会〕

日 時：平成元年2月22日(水) 15:00～15:30

場 所：医学部分館 会議室

議 題：夏季休業中の時間外開館について

報告事項：1. 学位論文の寄贈について 2. 試験期休日開館について 3. 第9回大学図書館研究集会について 4. 昭和63年度第4回目録システム講習会について 5. その他

〔寄贈図書〕

昭和63年12月より平成元年2月までにご寄贈いただいた主な分を掲載します。(敬称略)

吉田美智子(成人保健学)「古代から幕末まで 日本医学先人伝」他 計44冊

〔新着図書案内〕

人体解剖学

1. 入門人体解剖学 改訂第3版(藤田恒夫) 南江堂 1988 分類：QS 4

生化学

2. 生化学(奥野和子他) 南山堂 1988 分類：QU 4
3. 小生化学書 改訂第3版(堀江滋夫) 金芳堂 1988 分類：QU 4

薬理学

4. 現代の薬理学 改訂第15版(田中潔編) 金原出版 1988 分類：Qu 4
5. 医科薬理学(藤原元始他) 南山堂 1988 分類：QV 4
6. 図説病態生理と薬の作用 第4版(石橋丸應) 南山堂 1988 分類：QV 4

細菌学および免疫学

7. 新細菌学入門 第2版(牛場大蔵・斎藤和久編) 南山堂 1988 分類：QW 4
8. 最新免疫研究法(林秀雄・山村雄一編) 医学書院 1988 分類：QW520

臨床病理学

9. 臨床検査指針 改訂5版(日本医師会編) 金原出版 1988 分類:QY 4
10. 臨床検査法提要 改訂第29版(金井泉原著;金井正光編著) 金原出版 1988 分類:QY25

病理学

11. 基準病理学・総論(青木重久・小泉富美朝編著) 南江堂 1988 分類:QZ 4
12. エッセンシャル病理学 第3版(大西義久編) 医歯薬出版 1988 分類:QZ 4
13. 疾患からみた基礎病理学(浅野伍郎・永田登喜雄編) 広川書店 1988 分類:QZ 4
14. 臨床・病理乳癌取扱い規約(乳癌研究会編) 金原出版 1988 分類:QZ 200
15. 外科・病理甲状腺癌取扱い規約(甲状腺外科検討会編) 金原出版 1988 分類:QZ 200
16. 今日の整形外科治療指針(山内裕雄他編) 医学書院 1987 分類:WE 168
17. 筋電図マニュアル(藤原哲司) 金芳堂 1988 分類:WE 500
18. 基本腰椎外科手術書(辻陽雄) 南江堂 1988 分類:WE 750

呼吸器系

19. 肺機能検査 中島重徳編 金芳堂 1985 分類:WF 600
20. 肺癌診療マニュアル(於保健吉・雨宮隆太) 医学書院 1988 分類:WF 658
21. 胸部X線読影のポイント(甲斐隆義他) 金芳堂 1987 分類:WF 975

[試験期休日開館利用状況]

平成元年2月、後学期期末試験の為、休日開館を行いました。入館者の状況は下記の通りです。

- 平成元年2月11日(土) 141人
 平成元年2月12日(日) 84人
 平成元年2月19日(日) 94人
 合計 319人

[学位論文の利用案内]

医学部教官学位取得者に対して学位論文の寄贈をお願いしましたところ多数の方々から御寄贈頂きました。学位論文のコーナー(1階閲覧室)に配架してありますので御利用下さい。

[来館者]

- 昭和63年11月19日(土) 石田医学部事務部長及び池田管理課長
 昭和63年12月15日(木) 大阪大学施設部建築課 石原進課長補佐及び神原良雄氏

ブラウジング・コーナー

同 姓 同 名

私が住んでいる首里末吉町内に私と同姓同名の人が住んでいるらしくて、或日、電話がかかってきて、かわいい女の声でなれなれしく語りかけてくるので、「どなたですか」と聞いたら、「またまた、しらっばくれて、私よ」ときたもんだ。聞きおぼえのない声だから、「どなたでしたかね」と言ったら電話を切られてしまった。また或時なぞは、私が留守でこどもが電話をとったら、那覇港の近くで会いたいからということだった。半信半疑でノコノコ出かけていったら見ず知らずの人だった。またいろいろの通知ものやはがきも舞いこんでくるので、はなはだ迷惑している。相手方もおそらく同じような迷惑を蒙っているであろう。

戦争花嫁でフィリピン人と結婚した人が沖縄に帰省するため手続きに行った際の話だが、領事館の担当官から家族について質問があって、

「お父さんの名前は？」「ナカソネカナです。」

「お母さんの名前は？」「ナカソネカナです。」

「お父さんの名前は？」「ナカソネカナです。」

くり返している中に係官はとうとう怒り出してしまった。仕方がないから字を書いて見せた。父は加那で、母はカナと。それでもいぶかしげだったという。我々の祖父母の時代の沖縄の人の名前は、男女ともカナが居たし、カマも女にも男にも居た。また、おばあさんにジルーが居たのには閉口した。男まさりの才気ある女を女郎と呼んだそうだから、その伝でいくと女の名が次郎でもおかしくはないのだが？

(情報サービス課 T. Y)

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第22巻 第1号 [通巻第82号]

平成元年3月20日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話(0988) 5-2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会